

【シリーズ】
多様な主体による協働のまちづくり　－Vol.1－

対話と協働で支え合う地域を目指して

地域の課題を出し合った模造紙

第２部のグループワークの様子

与謝野町では、令和６年３月に策定した「多様な主体による協働のまちづくり推進指針」に基づき、対話と協働による地域づくりを進めています。

人口減少や地域の担い手不足が進む中でも、住み慣れた地域で「いつまでも暮らしやすく、これからも住み続けたい」と感じられる地域社会を目指し、今年度は「与謝野町地域円卓会議（仮称）準備委員会（以下、準備委員会）」を設置し、これからの地域協働の仕組みの検討を開始しました。今月号から、準備委員会での協議内容を掲載していきます。

問　企画財政課 ☎ 43-9015

仕組みの検討段階から、多様な主体で話し合う



地域にはそれぞれの歴史や背景があり、また、抱えている課題や取り組んでいる活動もさまざまです。そのため、行政だけで地域の実情に合った仕組みをつくることはできません。

準備委員会には、自治会、公民館、社会福祉協議会、地域活動団体、地域事業者、行政など、地域にかかわるさまざまな立場の皆さんが参加します。それぞれが日ごろの活動で感じていることや地域の実情、活動上の課題などを持ち寄り、そして、どのような人や団体がつながればよいのか、それぞれがどのような役割を担えるのかを話し合います。さらに、どう実践につなげていくのかについても、仕組みづくりの段階から一緒に考えていきます。

地域の課題を一つの主体だけで抱え込まず、多様な主体で考え、実践につなげる仕組みを目指します。

第１回準備員会を開催しました



10月17日、知遊館において、第1回準備委員会を開催。第1部では、NPO法人テダス代表理事の高橋博樹（たかはしひろき）さんを講師に迎え、「協働のまちづくりに必要なこと」をテーマに、協働のまちづくりの考え方について学びました。お互いの「得意技」を知ることが強い地域を作ること、「やりたい意思を持つ人」が集まる場づくりが不可欠であること、小さな実践を積み重ねて「動き慣れていく」ことが成功の秘訣であることなど、携わってこられた多くの実践事例からの気づきをお話いただきました。

第2部では、これから検討していく地域円卓会議（仮称）がどのような話し合いの場になるのかをイメージするため、地域課題を題材にした体験型の話し合いを実施。3つのグループに分かれ、それぞれの立場から地域の実情や課題を出し合いながら、「誰と一緒に考えるとよいか」「どのような役割分担が考えられるか」などについて、実際に多様な主体が一緒に話し合うことを体験しながら意見を交わしました。

令和９年度以降の設置・運用を目指します

準備委員会は全4回です。第1回の「学ぶ・知る」を出発点に、第2回では論点を整理し、第3回では仕組みの方向性を比較・検討。第4回では、それまでの議論を踏まえて制度・運用素案をまとめ、令和9年度以降の設置・運用につなげていく予定です。

町ホームページでも各回の内容や検討経過を掲載しています。



グループワークの結果を報告する参加者

準備委員会ページ

協働推進指針ページ

今後の予定

【第2回】
日時　11月25日（水）午後7時～
会場　野田川わーくぱる
内容　地域内の交わりをつくる条件や環境について話し合う

【第3回】
日時　12月23日（水）午後7時～
会場　元気館
内容　地域の実情に合った仕組みを検討する（他事例の比較など）

【第4回】
日時　令和9年1月27日（水）午後7時～
会場　生涯学習センター 知遊館
内容　地域円卓会議（仮称）の仕組み案をまとめる

話し合いで出たテーマ

- **若い世代や女性が住み続けたり、戻ってきたりできる地域にするには？**

子育て世代の声を自分たちから聞きに行くことや、空き家を活用した若い人が集まれる場づくりなどのアイデアが出ました。

- **高齢になっても安心して暮らせる地域にするには？**

気軽に集まれる場、見守りや生活支援、病院や買い物などへの「ちょっとした移動手段の確保」などについて意見が出ました。

- **地域活動の担い手不足をどう考えるか？**

若い人がいないのではなく、どう声をかけ、かかわってもらうかに壁があることや、これまでのやり方を若い世代のニーズに合わせて見直すことの大切さについて話し合いました。

話し合いから見えてきたこと



第１部の講師
NPO 法人テダスの
高橋代表理事

当事者の声をこちらから聞きに行くこと、「やりたい」という人を応援したり、困ったときに気軽に相談・サポートし合える関係性をつくること、テーマに応じて必要な人や団体とつながること、一つの団体や一つの分野だけでは難しい課題を一緒に考えることなど、今後の地域円卓会議（仮称）を考える上でのヒントも見えてきました。